



藤沢市立明治中学校 学校だより

2024年5月23日

明中通信

No. 2

発行 校長 中尾安伸

<学校教育目標> ひと・もの・ことと豊かに関わりながら たくましく生きる生徒の育成

学校ホームページ <http://www.fujisawa-kng.ed.jp/jmeij/>

【伝えたいこと① 合言葉「自分も 人も 大切に」について（目指す学校）】

この合言葉を思う気持ちの馳せ方は人それぞれ少しずつ違いがあるかもしれません。

昨年も紹介しましたがもう一度、私の考えを 2つ紹介 します。

1つ目は 言葉通り。自分も 周りの人も **一人ひとりが大切な存在**ということです。

2つ目は **自分と人は違う、同じではない**ということです。

違うから互いを大切にしよう。成長できる、学ぶことができる。成長することができる。です。考え方、興味を持つもの、行動や言動、得意なこと、苦手なこと、好きなこと、嫌いなことみんなちがいます。ちがって当たり前。

まずは、「人の考え」を受け入れることが大切

もう一つ「自分の考え」を大切にすること

「人の考え」と「自分の考え」が違うとき、「どうすれば」という疑問を持つ場合は？

まずは互いの考えが同じでも、違っても**相手の考えを受け入れること**。

同じことでも、考え方・整理の仕方などに違いがある場合。

違うことでも、正誤を問わず新たな考え方や自分の考え方を互いに学ぶことができるもの。

答えが決まっているもの、答えが決まっていないもの。双方が間違っていなかったり、両方間違っていたりすることもありますよね（きっと今までの経験にあるのでは？）。

そこで「お互いに 自分も 人も 大切に」を合言葉として。立ち止まり、深く、広く進む方向(新たな考え方)を**改メテ自分デ決メル**ことの大切さに気づいていきましょう。

再考した、新しく「自分で決めた または 選んだ」考えを「自分の考え」とします。

「それを繰り返す力」

私は特に**自分で選ぶ、決定する、判断する**という場面を増やしてほしいと思っています。

答えのない課題に対して、自分の考えが組み立てられる人。

他の人と協力して、高めていける人。が これからは求められますね。

日々の授業、学校行事、部活動と様々な体験を通して多くの経験をするようになります。

その中で、何かひとつ、自分が頑張れる、打ち込めるものを見つけてください。

学習はもちろん、部活でも行事でも、何でもかまいません。

「夢中になって取り組んだこと全て」が、中学校での勉強です。その経験が、皆さんを大きく成長させてくれます。

考えの違う人も含め、一人ひとりと関わり学ぶことから、思考や言動に広がりや深みを得て

「自分が自分を成長させる力」をヤシナイ、

「たくましく生きる力」をミニツケマショウ。

<対面式 4 / 9 >



先輩方との対面式 先輩から1年生への校歌 新入生誓いの言葉 対面式主催：生徒会本部役員

<運動会ブロック抽選 4 / 9 >



3年生の様子 2年生の様子 全体の様子 主催：運動会実行委員(体育委員)

6月15日(土) 令和6年度 **第76回明治中学校校運動会**を行います。
カラーは次の通り。6月3日(月)から2週間、運動会日課スタート。

運動会のブロック割り

白ブロック 34組 23組 13組	赤ブロック 36組 25組 15組	黄ブロック 35組 22組 11組	緑ブロック 32組 21組 14組	青ブロック 33組 24組 12組	橙ブロック 31組 26組 16組
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

<委員会・部活動紹介 4/8 >



真剣に見入っている1年生 委員会紹介の様子 部活動紹介の様子

<防災訓練 4/10 >

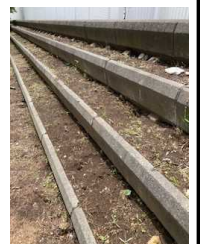


年度初め、早めの準備。
今回は地震が起き、
1階の調理室から出火
したことを想定。
真剣に池上先生の話
を聞いている様子。

<草むしりピフォア・アフター 5/11 (土) >



明中応援隊と明中
おやじの会のコラ
ボで草むしりをし
ていただきました。
「感謝」(*^-へ^-*)



<伝えたいこと② 熱中症の対策「暑熱順化」って? >

「暑熱順化」とは、体が暑さに慣れることです。暑い日が続くと、体は次第に暑さに慣れて、暑さに強くなります。本格的な夏が来る前に汗のかきやすい身体にしておくことが熱中症の対策に有効なようです。散歩や軽いジョギングをこの5月末から6月初めにやると効果的らしいですよ。ちょっと試してみないですか。

<明中応援隊 「癒やし」をありがとう>



そうそう! 校門入って校舎東側に面しているところ

時季にあわせて工夫(^_)



<グリーンベルト(グリーンライン) >

明治中学校正門の前は車が行き来する道路です。

特に帰るとき、日頃から注意しているとは思いますが・・・。

改めて「飛び出し絶対にしないで」ください。

その道路が新しく舗装されたこと、気付いていると思います。

工事後グリーンベルトが消えてしまって不安になりましたが、色鮮やかに復活。良かった。グリーンベルトは自動車等に注意喚起する促す効果もありますが、通学路の安全を確保するためのものです。明中生のために引かれたグリーンベルト。安全第一ですね。

<2年キャリア学習> 保育園の先生になってみよう ～ “あそび”を通して “まなぶ” ～

【目的】

- ・保育士の仕事を知ること、他者の立場に立って考える機会としてのまなぶ。
- ・保育園児の特徴や、年齢の違いなどを頭に置いて相手のことを想像し、お互いができること、楽しめること考えることで、色々な人と共生する力をまなぶ。
- ・計画、実践、振り返りをする中で、様々な学習や今後の学校生活に生かせる、課題解決の力をまなぶ。



<みの言葉>

門野友昭 さん

【事前学習】

① 保育園の先生による出前授業(4月)

・保育園の先生の日課や、普段気をつけていることなど、保育士の仕事について、やり甲斐についてなどを話していただきました。

② 保育園児と一緒にやるレクやゲームを考える。 テーマ「 “あそび” の中で学ぶ」として

1時間くらいの交流。園児に中学校に来てもらい、中学生が企画した内容のレクや遊びなどの計画・準備。

(1) 中学生(3クラスずつ)と年中さんか年長さん(それぞれ40名程度)計140名程度の人数で行えるレクを考える。

(2) 各クラス6班に分かれ、5~6人/班を編成する。園児(2人/班くらい)が、楽しめる遊びを班毎に考える。

【当日 5/22 24, 25, 26組 5/24 21, 22, 23組 年長さん来校予定】

5/22は年中さんの園児さんが来てくれました。園児が写っているので、写真掲載ができないのが残念。

見ているだけで癒やされる園児のみなさん。いつも優しい2年生のみなさんですが、いつにも増して、優しい表情になっているように見えました。

各班ごとに準備したものとして、「園児の身長に合わせた背丈の低い風船バレー用のネット」や「トランプタワーのように積み上げて遊ぶ大型のカード」など様々な工夫がみられました。ハンカチ(落とし)や風船や新聞紙も活躍しましたね

園児が目を輝かせていました。今回、2年生の最大のミッションは「園児の目を輝かせる」ことにあったと私は考えています。 ミッション大成功ですね。

最後のお別れのときにお互いに手を振り合って、別れを惜んでいる様子も印象的なシーンでした。



2年生のみなさんにも聞こえたと思います。園児が別れ際に「楽しかった～」と叫んだあの生の声を。私はその声を聞いて、みなさんを誇らしく思い、嬉しく思いました。

【園長先生から聞いたこぼれ話】はじめの追いかけて最中に、なじめない園児が2人いました。その園児に折りを見て何度も話しかけて来てくれた優しい生徒がいたとのこと。

【伝えたいこと③】 「ひばりの引っ越し」

「ひばりが麦畑に巣」を作りました。

初夏のある日「大勢」の村人がやってきて「そろそろ麦を刈らないとな〜」と話をしていました。

聞いていたひばりの子供が「お母さん麦刈りが始まるから、引っ越ししよう」と言いました。しかしひばりのお母さんは「まだ、大丈夫」と平然としていました。

数日がたって「3人」の村人が「ぼちぼち、麦を刈らないとな〜」と話していました。これを聞いていたひばりの子供が「お母さん、もう駄目だよ！」と叫びました。しかしお母さんは「まだ、大丈夫」と取り合いませんでした。

更に数日後、今度は村人が「一人」でやってきて「じゃあ、ぼちぼちやるか」とつぶやきました。そこで初めてお母さんは言いました。「さあ、逃げましょう」と。

この話の「教訓」はどのようなことでしょうか。

「みんなでやろう」と言っているうちは人はモノごとを始めないそうです。
「数人でやろう」と言ってもまだ始まりません。

もう一つ 「**リングエルマン効果**」という話を紹介します。

リングエルマン効果とは人は**共同作業の際に無意識に手を抜いてしまう**という現象のことです。フランスの農学者であるリングエルマン氏により提唱された理論です。

次に **無意識**に行われていると実証した実験として、心理学者であるラタネ氏とダーリー氏が行った「**チアリーダーの実験**」も紹介します。

「チアリーダーの実験」

チアリーダー2人に目隠しとヘッドフォンを着用してもらい、互いの状態が分からないようにしたなかで、単独の場合とペアの場合で大声を出してもらいます。するとペアの場合は単独のときと比較して94%の音量しか出なかったそうです。でもチアリーダー2人は、いずれの場合も全力で声を出したという認識でした。

「人を増やせば生産性が上がる」というのは当たり前のようですが、条件が必要とのこと。

リングエルマン効果から派生した実験で、**応援者が存在することで集団においても個人のパフォーマンスは低下しなかった**という結果が得られているそうです。確かに「身近な応援者」が存在することで、「がんばれること」ってあるのかもしれないね。**「応援」ってすごいね。**

この寓話は モノ事は「誰かひとりの行動」から始まります。ひとりが来て「やろう！」としたときに物事が動くことを。そして、その意思が周りに影響を与え「物事が動き出す」ということをこの話は教えてくれているのではないのでしょうか。

「意識ではなく」 大事なのは **「行動」** その行動をどのように創り出すかと言っているように感じます。

「誰かがやってくれるだろう」ではなく、まず「自分」が動くですかね。

私の行動は「ヒバリのお母さん」に見透かされているかもしれません。

<保護者のみなさまへ>

1ヶ月の休養をいただきました。ご迷惑をおかけしました。復帰後、何人もの生徒が声をかけてくれました。一番の快復薬になりました。本当に優しい生徒ばかりです。また、保護者のみなさまからも温かな言葉の数々、ありがとうございます。感謝申し上げます。

明日から3年生とともに奈良・京都の修学旅行に行ってみます。その様子は次回の学校だよりにて報告させていただきます。これから、またよろしく願いいたします。 中尾安伸